

〈ガメツイ女弁護士!商魂逞しい稲田行革大臣〉

没義道の極致! 前代未聞の「ダーティー選挙」

自民党県連が夏の参院選公認候補選びに行った『黨員投票』を一部の県議、市議は「福井県の選挙史上類のない「ダーティーさ」と酷評する。

黨員投票を『公明正大』と稲田朋美自民党県連会長は明言したが、県内の全自民黨員約8500人の約半数の黨員には2通の封書が届き、1通には投票用紙と関係書類、もう1通には3、4種類の怪文

書が同封され、多数の黨員は自民党県連が誘導したと錯覚。「県連は何と汚い手を使うのか」と評判にもなった。

県連は互いに誹謗中傷しながら誓約書を取り付けながら、特定の候補を誹謗中傷した怪文書はいずれも道義に反する卑劣極まりない文面であり、投票用紙と怪文書が同じ日に送付されたとは言語道断。

保守王国、福井選挙区の自民党公認を得たからには参院選当選間違いなし。41歳、東

実態 あらず 者選び

夏の参院選に向け、自民党県連稲田朋美会長は県連史上初の「黨員投票」を決行。それは没義道の極致、またもや中央である一部に支配された公認選びであり、県民の信頼を大きく失墜させた。互いに誹謗中傷はしないという誓約書を取り付けながら怪文書が投票用紙と同じ日に送られてきたという。結果は、正直者がバカを見た。

大法学部卒、財務省出身かつ夫人は台湾人のスーパリエリートが政界デビューと相成る。泥にまみれた前代未聞の「ダーティー選挙」。本人のみならず福井県民自民党全体の没義道の極致と言える。またしても、川田達男福井商工会議所会頭・西川一誠福井県知事・宮崎和彦福井商工会議所常務理事演出のドラマの再現であり、今回はプロデューサーの一員として稲田県連会長が存在する。

投票用紙が配達された日から情勢は一転、一夜にして潮目に変化ありと、関係者は指摘する。

2月中旬、瀧波氏は選挙運動の最中にも関わらず急きよ上京。2日半滞在し、稲田県連会長と菅義偉官房長官、他自民党幹部数名による密会が持たれ、重要な作戦会議が行われた様子。

年末の衆院選で政権奪還を成し遂げた県連は、参院選候補者選びが本格化。すでに、大野市出身で前財務省機構業務室長の瀧波宏文氏、学校法人金井学園理事長の金井兼氏、高浜町の元県議、一瀬明宏氏の3人が県連幹部や県議ら有力者へのあいさつ回りをするなど選挙活動さながらに動き、稲田県連会長の手腕と技量の見せ所となった。

稲田会長は「公明正大に選定するため」と大義名分を付け公募制による「黨員投票」を公表。県連27支部いずれかの推薦を受けた公募者の中

この笑顔に
だまされた

暴かれた刺客の

「福井のおっかさん」に

中央に支配された自民党県連公認

ら無記名の党員投票で公認候補1人を決めるといふ県連史上初の試みに出た。瀧波氏は大野市支部、一瀬氏は高浜町支部、金井氏は福井市支部の推薦を取り付け候補者公募に申請。3陣営は事実上の自民党公認を受ける選挙戦に突入。2月19日党員投票告示、3月2日開票と決まったが、各陣営はすでに電話作戦や有力者の人脈を伝手に党員への働き掛けなどを展開。昨年の松村氏の引退表明を受け、本県の「政界のドン」



雨降る師走の総選挙
「稲田先生」の出陣式に集まった支援者

山崎正昭参院議員が金井氏の政界転身を決意させ、全面支援に動いた。稲田県連会長は自身のこれまでの選挙で全面支援してもらっている恩もあり、福井市支部幹部(自民党1区選出県議、保守系福井市会議員)を招集し、「金井氏を支援してほしい」と頭を下げた。幹部からは稲田県連会長の顔だけで「宜しく」は失礼だという意見も出たが、全会一致で金井氏推薦を決めた。前田康博県議を後援会長に決め、放送会館内に事務所を開き「金井絶対優勢」の勢いを見せていた。

結果は、本県でほぼ無名の瀧波氏が投票数の6割超を獲得し、夏に行われる参議院選挙(任期6年解散なし)に福井県全県1区の自民党公認候補となった。